



荒あ磯い割わ烹り

鯉こい魚の腸ちゆう

二編

八代目園十郎の

ほし

久保田彦作綴

守川周彦画



青空堂

かき岩板

65

60

55

50

あらいそまろ
あらいのまろ
荒磯割烹鯉魚腸 二編

上



A570
2

あふりそわらう

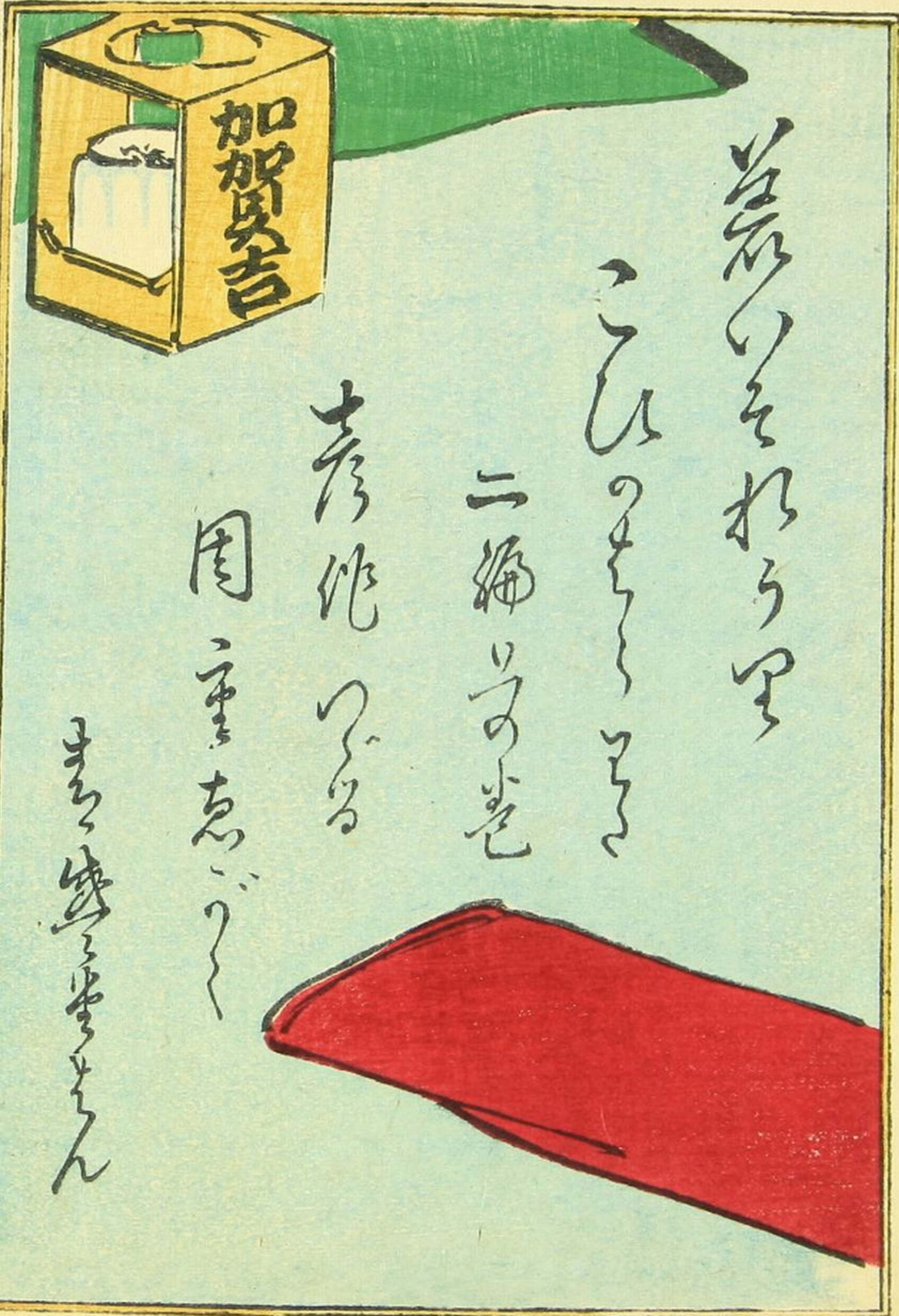
こしひのまじり

二編りの巻

たふ作つる

周々志つる

まらあまらまら



荒磯割り第貳編序

怪力乱神と語りばと古語の教諭もあつたものとてつゞき合

せ箱根の怪談山より東方へ来らば共名古屋とついで

浪華津に咲や此花冬籠り開く初編の室咲も白ひと

運ふ鉢植の彦作兄が手際の痛用御いぬ叶ひて大吉

り一版元さんが藏入も福壽草は黄金色よと添き祝ふ

二編の序一頼まきもせぬおせつるい

狂言作者

竹柴進三 謹

明治十四年二月

荒磯二上

298-83707





龜 交山
畫家

俳諧師
六裁菴龜成

初編よりよき

本内を門に

素内を以て入り
事の良は

く出入るすゆた具屋の

源流をわたりて中世の

一問小振り葉たを盆

葉ふるるといふ町

る手内之個之林やて

終るて後源流の持

後源流の持を世に

はしを状方とれと

① 持入

付の扱具とあま

お月らうひたる中

世の中綿あるは

② 買入

容の男は 裁の 葉の 今 ねと

けまは

あに面を

買入

③ 買入



① 己がく
 勢々
 おま
 村系
 り
 との
 龍
 名
 ま
 刀
 刃
 ③

田

田

④
 ねん
 ⑤

改め



三上

①
 ②

③
 ④
 ⑤

⑥
 ⑦

⑥
 ⑦
 ⑧
 ⑨

⑩
 ⑪
 ⑫
 ⑬
 ⑭
 ⑮



三宮のせき
 簪らく九折一鶴
 せきの中
 その
 一寸の物のかわども
 疵へ多く実小氷のぬわの冬まき
 金糸に標と角の毛糸はまき
 相まより月打と抜きはぬみへ勿務とこの

四
 実小氷のぬわ
 一寸の物のかわども
 疵へ多く実小氷のぬわの冬まき
 金糸に標と角の毛糸はまき



一
 二宮のぬわもななくいといふ家にあくと
 分昭おろれども家とのか字の扱まに
 けとまらにんまきかめて不富味ひど
 袂尺と削の相物やすうとせにひ
 ちよとぬのあまを
 あれ心
 家か

二
 依に懸ひ
 三
 愛機一
 五
 六
 七
 八
 九
 十



一生の世に
 とつて目利の
 手とまきうに違
 才しとつてに
 名を許すは
 深き由りて
 歌方か刀練好と持好
 上まきありて自然と極
 目利の才は深きと
 宗が幽き中て又深きと
 決まりてお舟のたと
 指のふれ懸きをあら

高麗蔵

猿蔵

長十郎

二つぐりまきうと
 深き由りて
 生すくまきう三

四空

世に由りて世に由りて世に由りて世に由りて



① 逆くも
 ② 田登具
 ③ 貞子
 ④ 御の深遠
 ⑤ 神儀海産
 ⑥ 自威

④ 一斤の紋子
 ⑤ 貞子招か
 ⑥ 湯る
 ⑦ 湯更
 ⑧ 湯と

⑨ 湯の好
 ⑩ 湯の好
 ⑪ 湯の好
 ⑫ 湯の好

⑬ 湯の好
 ⑭ 湯の好
 ⑮ 湯の好
 ⑯ 湯の好
 ⑰ 湯の好
 ⑱ 湯の好
 ⑲ 湯の好
 ⑳ 湯の好



① 小居
 ② 具方
 ③ 獨好
 ④ 不守
 ⑤ 相違
 ⑥ 下月
 ⑦ 竹
 ⑧ 百五十
 ⑨ けり
 ⑩ 云井
 ⑪ 求め

⑫ 交山
 ⑬ 帯
 ⑭ 葉
 ⑮ 葉
 ⑯ 葉
 ⑰ 葉
 ⑱ 葉
 ⑲ 葉
 ⑳ 葉

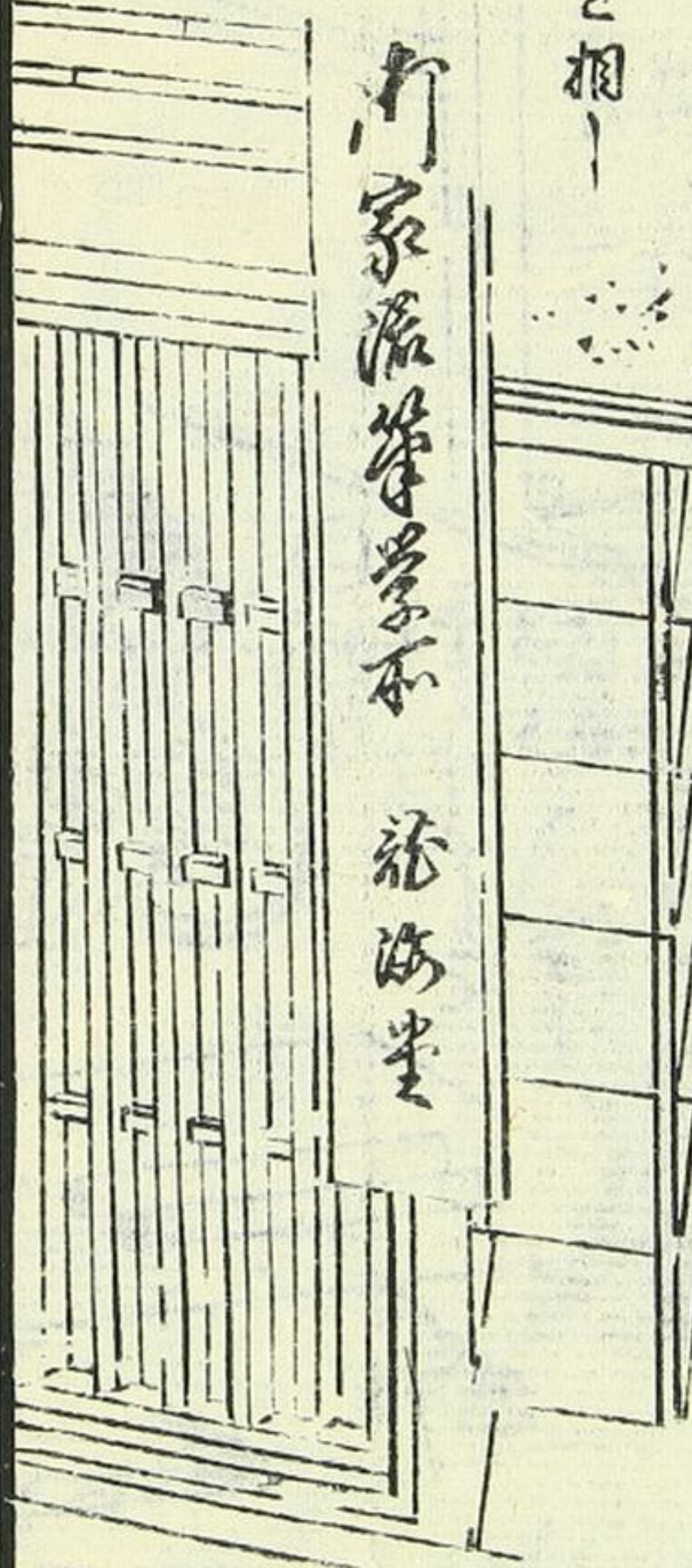
㉑ 葉
 ㉒ 葉
 ㉓ 葉
 ㉔ 葉
 ㉕ 葉
 ㉖ 葉
 ㉗ 葉
 ㉘ 葉
 ㉙ 葉

㉚ 葉
 ㉛ 葉
 ㉜ 葉
 ㉝ 葉
 ㉞ 葉
 ㉟ 葉
 ㊱ 葉
 ㊲ 葉
 ㊳ 葉

つぎ
ひま
信長
三升
幼幸
とり
秘蔵の
人相ありと相
たる者
雲雲
希代の
判明



河家流等学不 結海堂

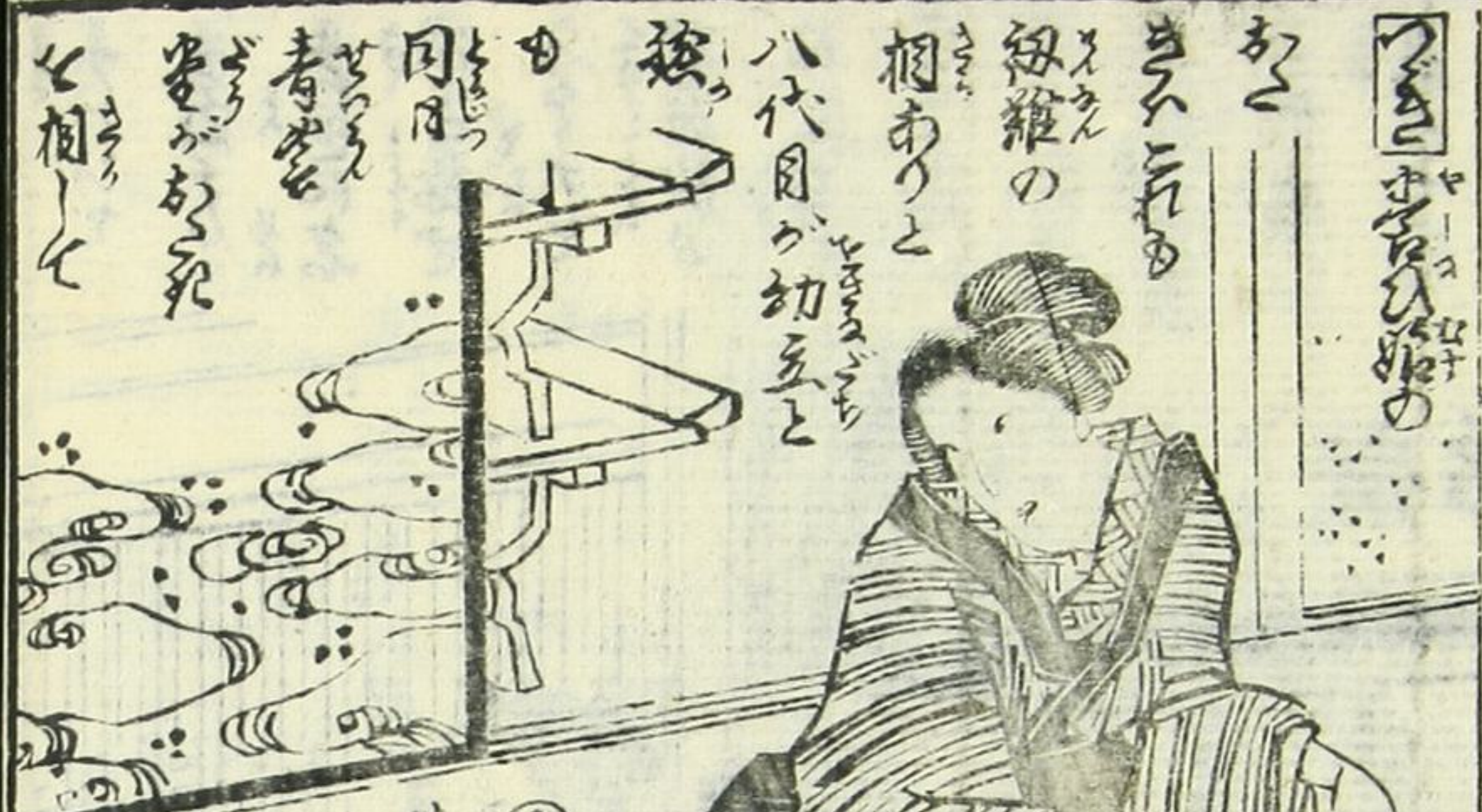


①町人田舎者とて容易ぬ好く死と
あへと命を奪ひて人の命を以て
刀剣の由と何より好むは是の由
又二ツ西の市川の裏と云はるる
田不動が新巻と云はるる
と人不知の秘蔵の物
西のよく伝傳息
至るく甲斐
諸井徳佛
と云行の甲斐
東源流がまよ
了る行の宗と

又の久と
まぬか
大世に名
作と称せ
うろ刀と
恥身放さ
ねのの
事もある
べとと教
中を
と武家と
通ひて①



おありの秘蔵の物
もろく
秘蔵
の
青雲
中々教える者
嬉し如と人の知れ
と母の秘蔵の物
内小春と云はるる
あひと云はるる
本在殊あか



④ 女子の身を手を母おと ⑧ 女を以て若く
 自らつる作りの物に因りてはと相お
 お案を極めしう
 再婚の
 おお
 十四の年
 借金を束
 けりて

⑥ 孫おのい
 せめて
 家
 へおのりておのりて



おのりて
 孫おのい
 実子にまき
 白人の風
 とお案と
 ①
 ②
 ③
 ④
 ⑤
 ⑥
 ⑦
 ⑧
 ⑨
 ⑩
 ⑪
 ⑫
 ⑬
 ⑭
 ⑮
 ⑯
 ⑰
 ⑱
 ⑲
 ⑳

町人の娘とてお案
 の身は懐妊をあら
 けりて

おのりて
 ①
 ②
 ③
 ④
 ⑤
 ⑥
 ⑦
 ⑧
 ⑨
 ⑩
 ⑪
 ⑫
 ⑬
 ⑭
 ⑮
 ⑯
 ⑰
 ⑱
 ⑲
 ⑳

万急 扱ふは別る様

退くは角立身と

十九の年お宿と

右へはか刺殺と

あや子

信世村に居るもの

羽生年お眼と揚り久

そとおへ下り侍お世

よの世とまけた人の跡は常

浦とあつる下宿は狐をと殺

おろけりや 旗打の業おめて

此宿家の竹足煙火

其の竹を以て海川なる



▲ 本 榮子

世昇入るは是

旗小美金の父は

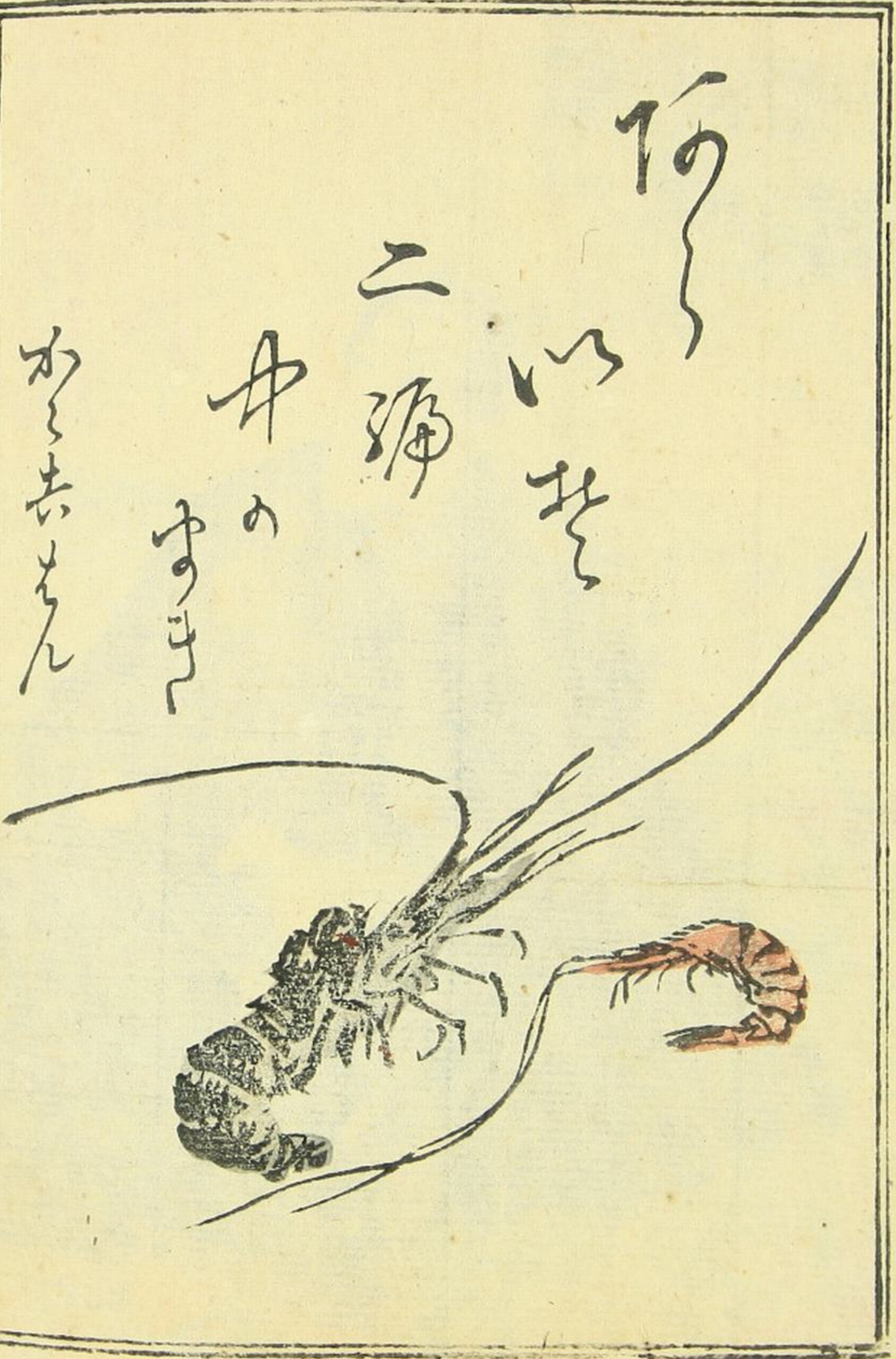
衆と知れり



久保田彦作著
守川周重画



中



何
 以共
 二海
 中
 あり
 あり
 あり

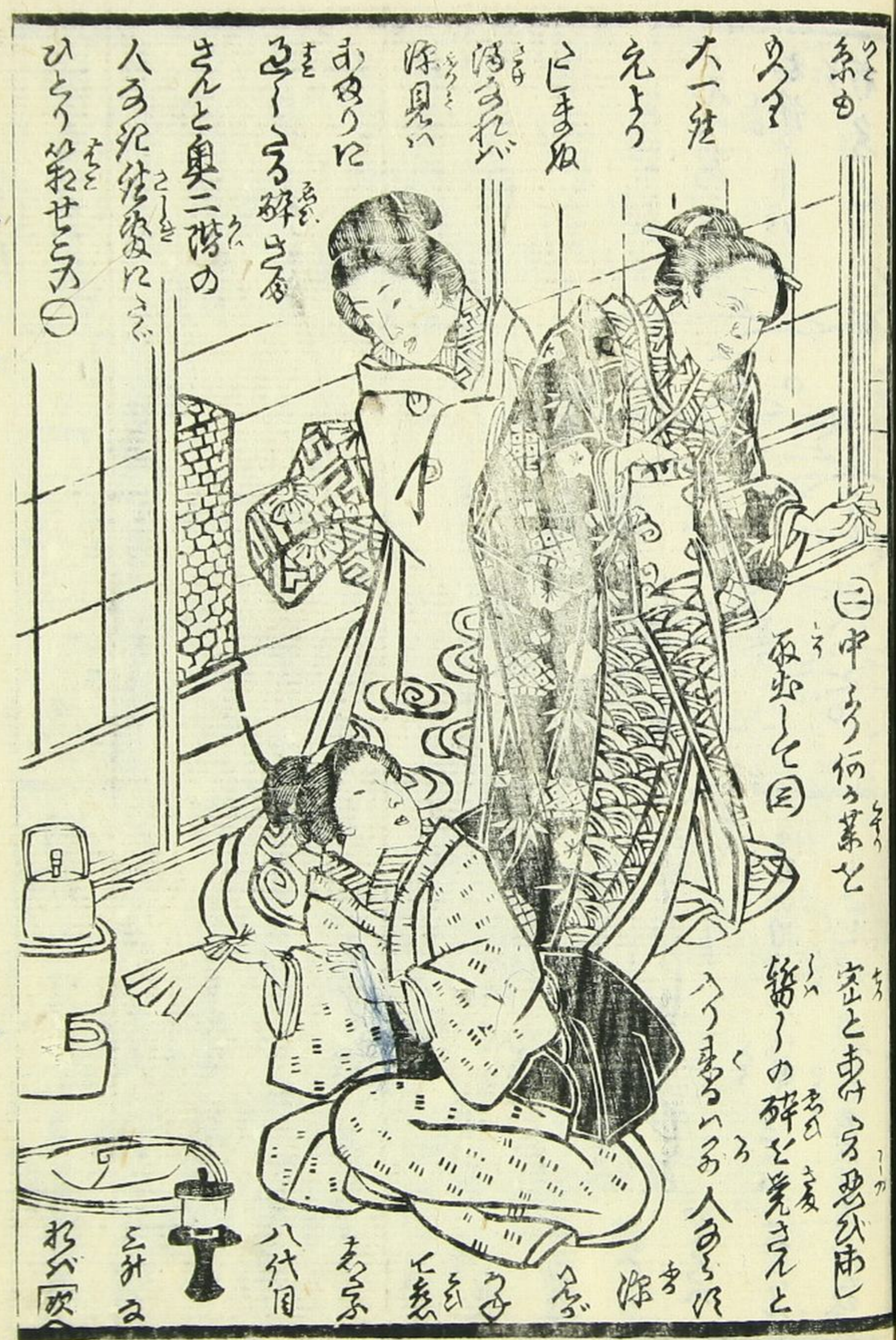
上の巻より... (二) 琴の海... (三) 茶... (四) 実...
 お樹... 又々のお...
 おうも...
 引合...
 兼て...
 見...
 ね...
 芝...
 ろ...
 近...
 (一) 茶...
 (二) 茶...
 (三) 芝...
 (四) 実...



又きり
きり
とろ
あき
とろ
あき
とろ
あき
とろ
あき

たろたろの
談ぎ三味線の

四口おろ
七替の
るそのあは
そと備休あ成
て休足するあは
の模と巻由ま



あき
あき
あき
あき
あき
あき
あき
あき
あき
あき

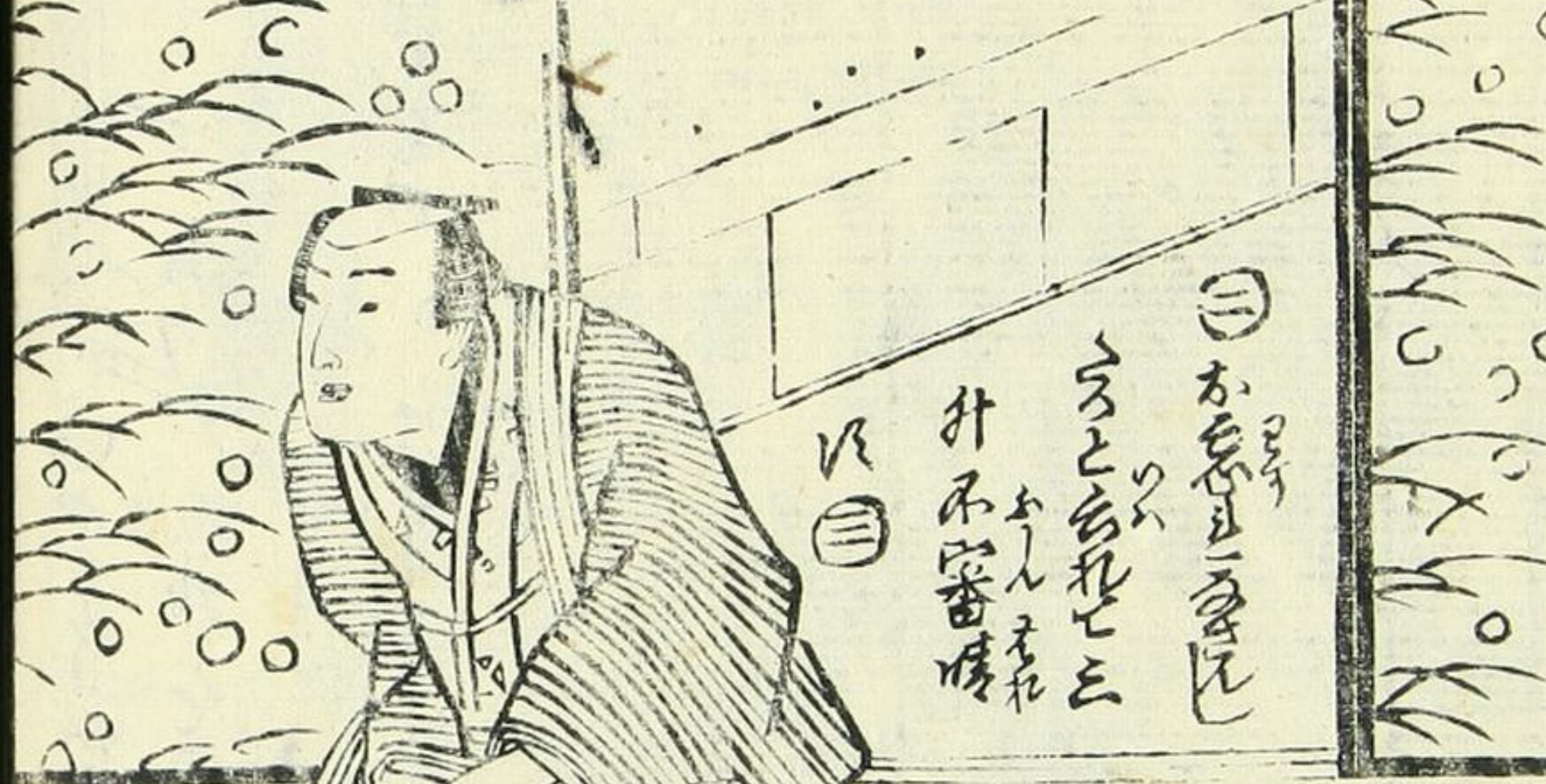
ひとりのあきせとろ

二中ふろ何と茶と
あきとて

定とあけつあきあき
替りのあきとあきと
あきあきあきあきあき

あき
あき
あき
あき
あき
あき
あき
あき
あき
あき

つぎとみまゝさう。
 とおきかゝるき
 やつひのひらひら
 方えとちて
 まの三升由飾りの
 奉小細はに何
 後見の進まよう
 糸袖はしきあ
 りあや七 親常
 まえへつてさへ
 お作し十次。
 おくると



三 おおきとまへ
 方とあらと
 升不審候
 以

四 何とてゆはのちを世に入
 友おひひめえはほへりの
 うろてと回返まればこれ
 うろとて「梅」を救へてな
 うへ二十葉あひりね青生堂
 の侍合座しをさ
 あま
 おき
 おまへ
 産の母さえ小懐れにお出さん
 ーととおしやんせぬりの

あひら
 甲斐又
 きんぎ
 公け
 久とて
 お目也
 已様
 お作し
 樂しと
 そのう
 甲斐受
 あてと
 水元がまへ日外のみ



とあまのさめ
 おれ
 十
 あ
 が
 船
 内
 出
 方
 の
 様
 乃
 子
 母
 お
 抱
 包
 入
 相
 と
 吉
 宝
 手
 の
 生
 世
 次



② 浮べんをいぢります
之林立出むい浮き
袖肘あまきと以奇

彦作著
周重画



かろる
宛受と
他とひそめ打とる
折る表さうまの
方ぞ一浮えく
あつた何不へ
ゆまうこと母が声あてよ
まふとむらふばむと升が推云ひの
飛つて見せじと又ありそい身らまらり被とがさるる

下の巻へつづく

新編西國奇談

廿編より
追々出版

薄緑娘あなみ

八編より
追々出版

娘庭訓黄金の鶏

追々出版

御届
明治十一年十二月十七日
神田區仲町一丁目六番地

編輯人 篠田久次郎

地本錦繪問屋

日本橋區米沢町一丁目一番地
出版人 櫻井六衛

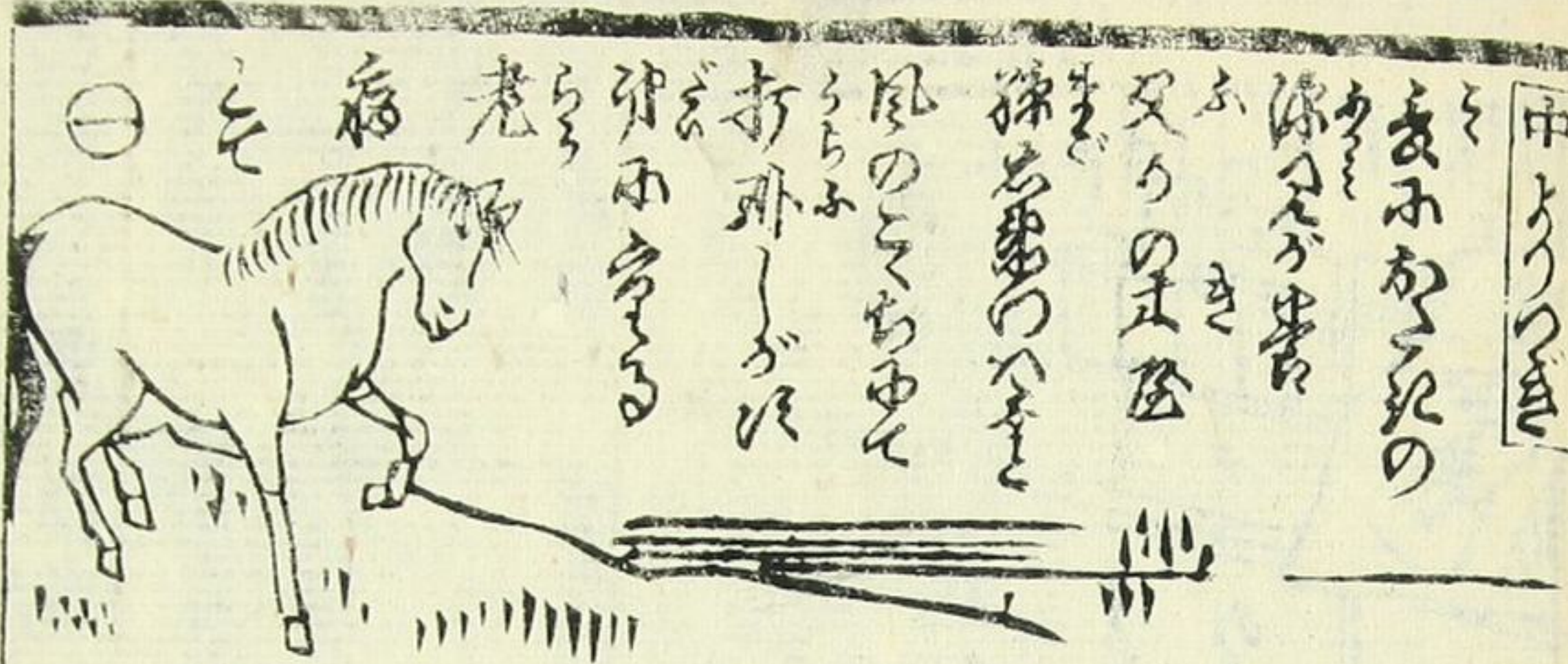


鳥居清満筆

加賀吉版

下





中より
まふあつたの
ふり
又りのまき
殊を重のふき
風のそちち
折れしが
けふも
老
病
を



②
③
④



④
今頃の世に
まふあつたの
ふり
又りのまき
殊を重のふき
風のそちち
折れしが
けふも
老
病
を

と
め
の
弘
子
政
め
た
れ

龍
三
下

三



下
の
下
の
下

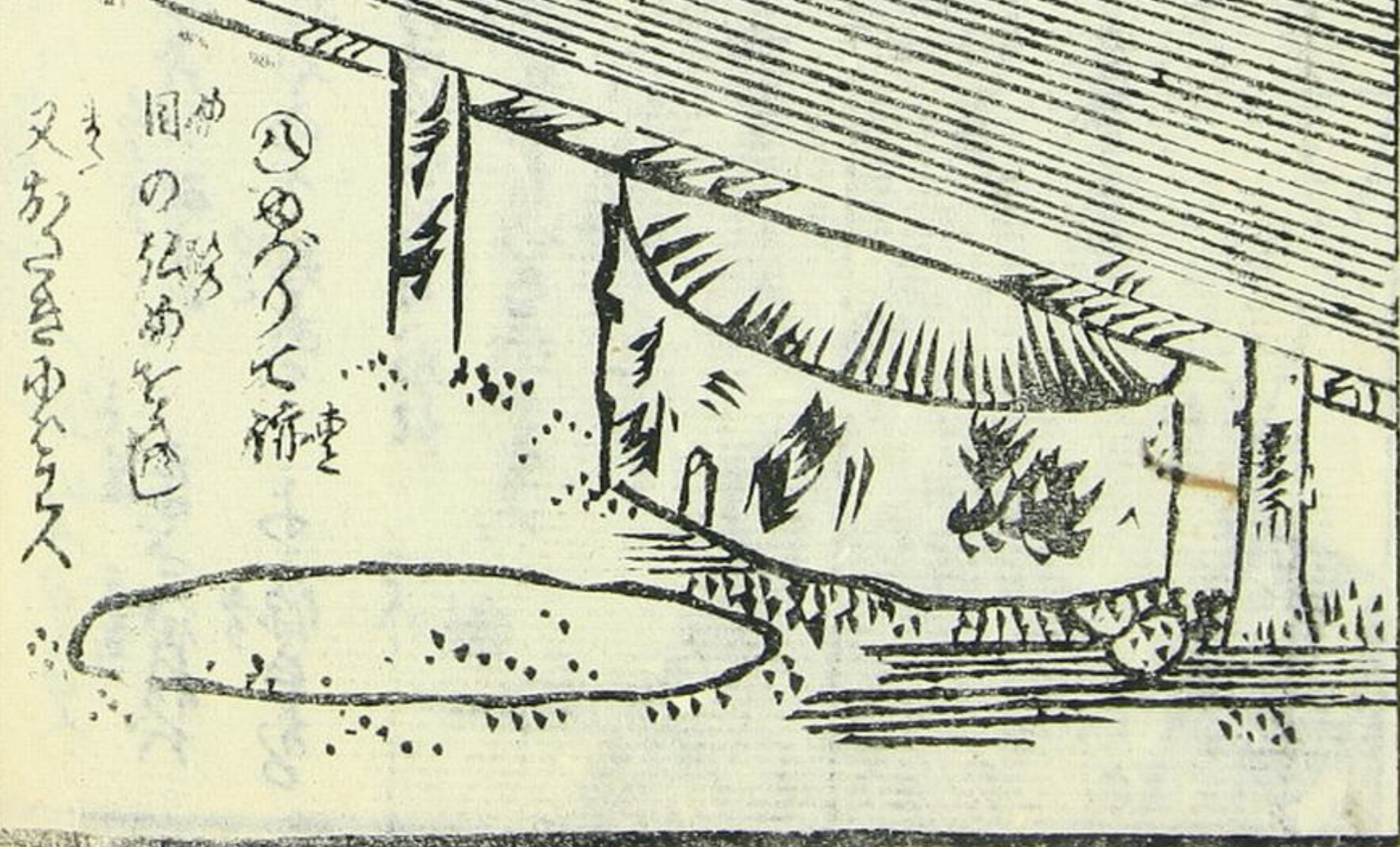
二
海

下
の
下



か
と
吉
板

① 暖簾の裏に
 て若いことを
 小色人止の癖の
 かのが二ツにけ
 よとまはる
 振かたを
 引取て
 女と
 世に
 とる
 しく後小
 驚きの



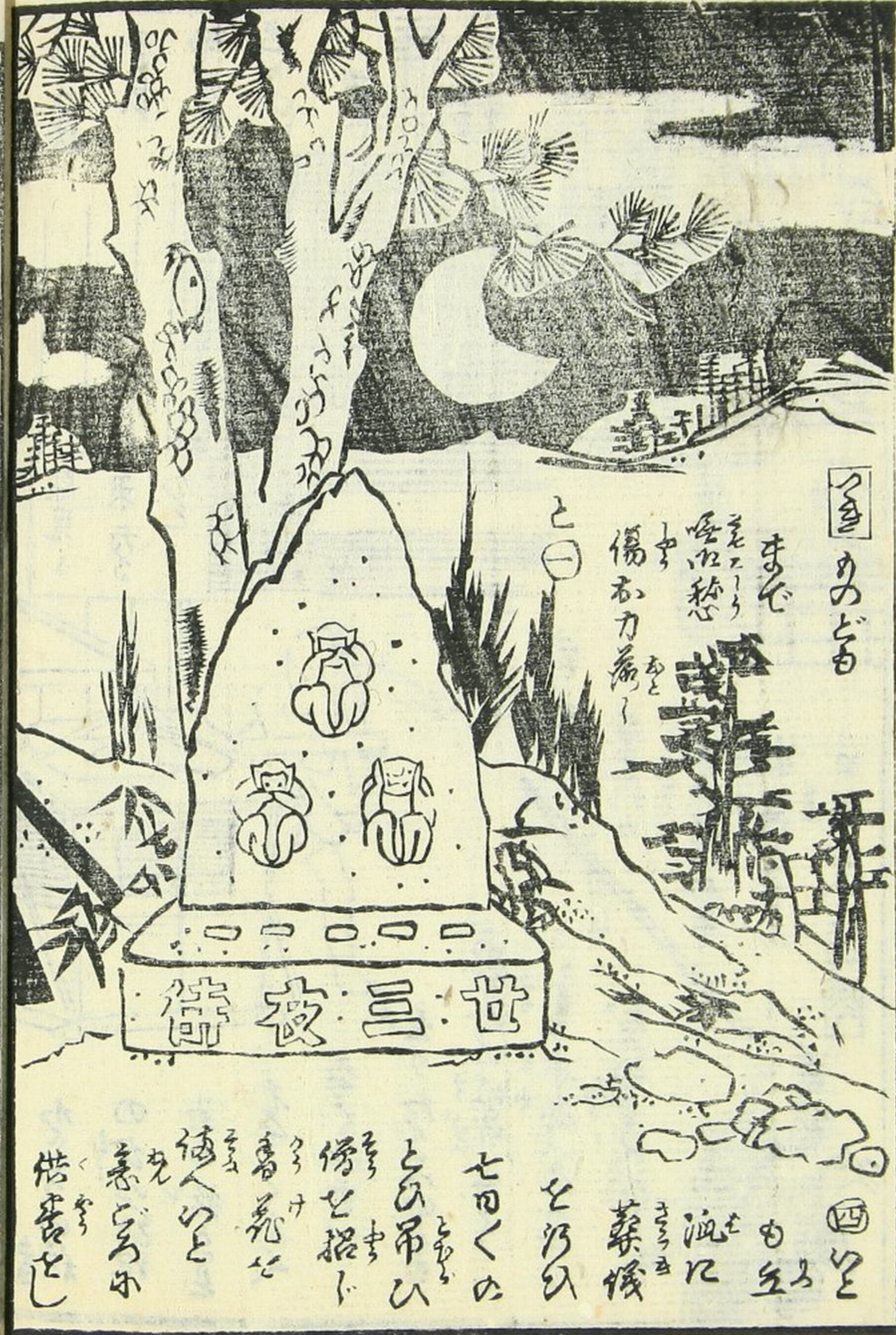
成田山
 大い
 うか
 成田山
 成田山
 成田山



⑥ 掘とりのま
 ても家招へか
 ぶしてあ
 何と小由女子の
 聲と
 由我相續へ南ちき ⑦

⑩ 北面の
 七ちと
 美ふさ

⑨ 世に



つきのものとも

まて
あつた
傷む力あ

三世夜衛

三世夜衛

四
 由
 流
 薬
 七
 とひ
 傷
 喜
 徳
 意
 世



②
 義
 り
 あ
 我
 棺
 と

重

③
 後
 世
 世
 世
 世
 世

の笑
 由内
 外
 月
 とうけ
 人へ
 慈と
 主人
 号
 ①



④ 長と
 まに
 つけ
 大
 忌
 上
 あ
 久
 何
 密

の
 威
 ち
 ち
 南
 孫
 孫
 性
 相



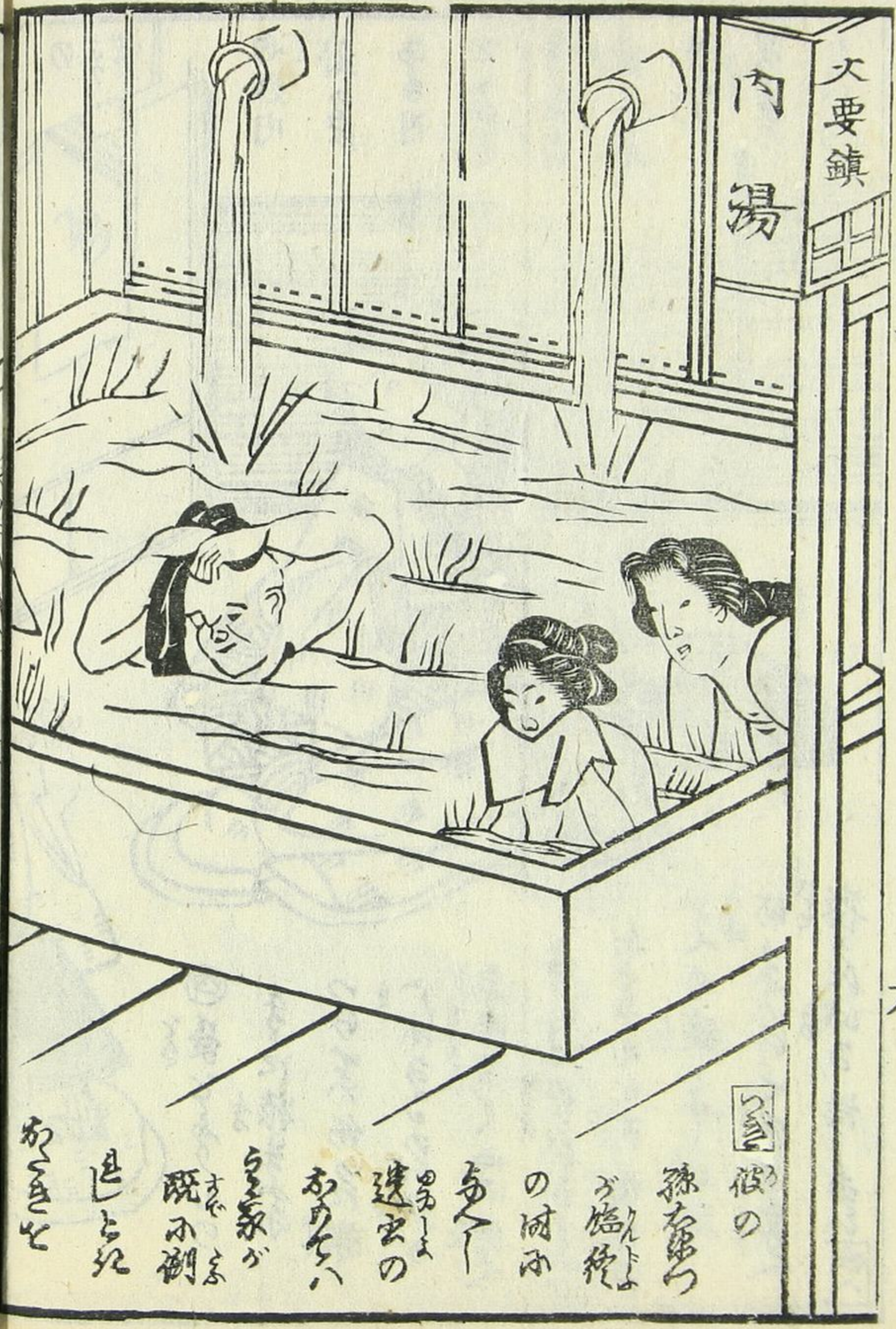
⑤
 ち
 人
 あ
 ち
 ち



三ツ西の
 教由二十
 余々不估
 券字めて一
 余直是七六
 八

二下
 二下

引とを
 一



大要鎮
 内湯

彼の
 孫を
 ざ
 の
 多
 速
 お
 既
 且
 あり

六



さく
曲り
まりき
性質へ
みまむ
らあむ
笑て
懐ゆる
冊さぬの
あつあつ通り
おしもさ
ふりそふい①

④ 懐り
状
あ
き
とあ
かき
かき
ふあ
ぶあ
さ
己の
わら
は
は



つぎ
むざく
他人
あつあつ
あつあつ
いおと己か
田へ
内角
も
ねあけ
松の探

⑤ あつあつ
とら
の
ま

七

七

彦作綴 周重画

三編へく

二編へく

一編へく

再編へく

再編へく

再編へく

再編へく

再編へく



四 世にわたる世話をせよ

三編へく

三編へく

三編へく

三編へく

三編へく

三編へく

三編へく

三編へく

新編西國奇談

追々出版

薄緑娘志々木

八編より 追々出版

娘庭訓黄金の鶏

追々出版

御届

神田區仲町一丁目六番地

明治十一年十二月十七日

編輯人 篠田久次郎

地本錦繪問屋

日本橋區米沢町一丁目七番地
出版人 堤吉兵衛

010190517867



知寶印